

はぼまい 歯舞地区マリンビジョンニュース

Vol.30
2010.9



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取り組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

4年目を迎えた長崎県・上五島町漁協との人事交流

● 歯舞地区マリンビジョン協議会では、つくり育てる漁業環境の整備と
● 人材育成の一環として、長崎県五島列島の上五島町漁協との人事交流を
● 行っています。

● この取り組みは今年で4年目を迎え、今年は7月26日～30日ま
● の5日間、歯舞漁協指導部保険共済課長の奥瀬健さんが上五島町漁協で
● の研修に参加しました。

● 五島列島は、長崎県の西側100kmに浮かぶ大小140余りの島々か
● らなり、研修先の上五島町漁協は新上五島町にあります。

● 研修内容は、魚市場研修等の現場作業を中心に、定置網や、信用・共済事業等の研修です。

● 魚市場では、上場された活魚についてセリ終了後買受人よりメの依頼があると、現場にいる全職員
● が活メ・神経抜きを行っていました。神経抜きを行うことにより、魚の死後硬直を遅らせ、魚の身を
● 硬化させない効果があるそうです。定置網漁業においても漁獲した魚を漁業者自らが一尾一尾丁寧に
● 活メ・神経抜きを行っていました。

● また、ブランド化の取り組みの一環として、「五島箱入娘」という名前で福岡を中心に関東、関西
● 方面へ魚を出荷しているそうです。下水・抗菌ウレタンの上に活メ・神経抜きした魚を均一サイズに

● きれいに並べ、魚の上に漁協
● 名が入ったフィルムを敷き、
● 上氷をかけるというもので、
● 鮮度保持による付加価値向上
● と食の安全安心に対する取り
● 組みが徹底されていました。

● 漁協に北と南の違いはあれ
● ど、浜のために取り組む姿勢
● は同じ、今回の貴重な体験を
● 業務に活かしたい、と奥瀬さ
● んは報告してくれました。

● さらに、8月24日～29日
● には上五島町漁協事業部の前
● 田寿之さんの派遣を受け、お
● 互いに多くのことを学び合え
● る人事交流となりました。



研修中の様子

アサリ漁場が完成 潮干狩りを実施しました



真剣な表情でアサリを掘る子供たち

歯舞地区マリナビジョン協議会と歯舞漁協がトーサムポロ漁港内に造成していた「アサリ獲り体験漁場」がこのほど完成し、8月25日に半島地区の4つの小学校児童を招待してアサリの潮干狩りを実施しました。

この日は華岬、共和、瑯瑯、温根元の4小学校全児童112人と教員27人が参加。天候にも恵まれ、漁場内のあちらこちらから子供たちの歓声が上がっていました。はじめはアサリと小石の見分けがつかなかった子供たちも、最後にはバケツに山盛りのアサリを手に満足げな表情を浮かべていました。

竹内組合長は、「地域の漁業に親しみ、学んでもらうことで活性化につながる。潮干狩りもその一環で、明るく楽しいまちづくりに充てたい」と話しました。来春から実施を予定している観光用一般開放へ向けても、たくさんの人に楽しんでもらい、歯舞をPRできるよう、取り組んでいきます。



「楽しかった！」と満足げな表情

友知海岸で「地曳網体験」を開催

歯舞地区マリナビジョンの「水産教室開催事業」のひとつである『第4回地曳網体験』が、8月30日、友知海岸で開催されました。

参加したのは花咲小学校の5年生55名です。全員で力を合わせて砂浜に網を引き上げ、網の中でカレイやイワシ、エビなどの小魚類が勢い良く飛び跳ねる様子を見て、大きな歓声を上げていました。

水産教室は、根室の基幹産業である漁業を子供達に知ってもらおうと、2007年から始めた取り組みです。今年は当初7月に開催を予定していましたが、あいにくの悪天候で中止となり、このほど無事に開催することができました。

今年も子供たちの喜ぶ顔を見ることができ、マリナビジョン協議会関係者も嬉しく思っております。これからも継続的に取り組んでいく予定です。



↑ かいっぱいに地曳網を引く子供たち

網にかかったカレイを手に嬉しそう！ →



8月29日に開催された「第4回歯舞こんぶ祭り」については、特別増刊号でお伝えします。そちらもお楽しみに！！

編集・発行・お問い合わせ

編集・発行

歯舞地区マリナビジョン協議会事務局

お問い合わせ

事務局 担当：根室市水産経済部水産港湾課水産振興担当

電話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

